

ロッテバイオロジクス「BioJapan2025」出展のご報告

ロッテホールディングスは、世界中の人々のウェルビーイング(心身ともに健康で幸福な状態)の実現を目指し、ヘルスケア領域での事業を加速しています。その中核を担う企業として韓国ロッテコーポレーションとの共同出資により設立されたロッテバイオロジクス(本社:韓国ソウル市、CEO:ジェームズ・パク)は10月8日から10月10日に開催された「BioJapan2025」へ出展しました。ロッテバイオロジクスにとって、アジア最大のバイオテクノロジーイベントBioJapanへの出展は今年で3年連続の参加となりました。

■約400名の潜在的顧客と意見交換

出展ブースは、昨年の2倍の規模に拡大し、ロッテバイオロジクスのCDMO戦略について展示を行いました。2022年、世界有数の製薬企業であるブリストル・マイヤーズ スクイブ(BMS)社から、米・シラキウス製造工場を譲り受けて事業を開始。約20年にわたる商業生産実績を持つこの拠点を核に、高い品質と安定供給能力をアピールしました。2027年に稼働開始となる韓国松島(ソンド)のバイオキャンパスを含めた米韓のデュアルサイトの優位性を紹介し、日本国内のみならず世界各国の製薬・バイオテック企業の皆さま約400名と活発な意見交換を行いました。



■CEOのジェームズ・パクが主催者セミナーに登壇

イベント3日目の10月10日、CEOのパクが主催者セミナーにて「製薬の未来の再定義:次世代ADCのCDMO戦略」と題した講演を行い、ロッテバイオロジクスのCDMOとしてのグローバル成長戦略を紹介しました。



このセミナーでは、米国の国内製造への回帰トレンドや、グローバルサプライチェーンの変化、ADC含む最先端のモダリティの導入など、変化する業界動向と市場動向について取り上げながら、米韓にバイオキャンパスを持つロッテバイオロジクスの強みと、信頼できる製造パートナーとして期待いただきたいという想いを話しました。

ロッテバイオロジクスは、今月後半の10月28日にCPHIワールドワイド、11月にワールドADCに参加する予定で、BIO Japan 2025の新規契約実績に基づいて、欧州市場での足跡をさらに拡大する計画です。

■CEO ジェームス・パクのコメント

抗体治療薬に対する世界的な需要は、規模と洗練度の両面で成長し続けると見込んでいます。ロッテバイオロジクスは、実証済みの卓越した製造と品質リーダーシップにより、進化する市場ニーズに適応し、世界中のクライアントをサポートする信頼できるパートナーであり続けます。

■ロッテバイオロジクスについて

ロッテバイオロジクスは、より健康的な世界に貢献する医薬品を提供することを使命として、2022年に韓国ソウルに本社を置いて設立されました。

米ニューヨーク州にあるシラキュース・バイオキャンパスでは、医薬品原薬の高品質なGMP製造サービスを提供しています。この施設では、5,000リットルのステンレス製バイオリアクター8基による合計40,000リットルの生産能力を備えています。また、同キャンパスには、世界62以上の規制当局から承認を受けた分析QC試験ラボや倉庫施設も併設されています。さらにロッテバイオロジクスは、抗体薬物複合体(ADC)の結合技術サービスを通じて、新たな専門領域にも進出しています。原薬製造および結合機能の両方を備えたADCモダリティに1億ドル以上の投資を行っており、原薬製造からコンジュゲーション(結合)まで一貫した、エンドツーエンドのサービスを提供しています。

ロッテバイオロジクスは将来を見据え、韓国松島(ソンド)バイオキャンパスにおいて、先進的なバイオプラントの建設を進めています。第1プラントはすでに着工しており、2027年の稼働開始を予定。商業生産向けの15,000リットルのステンレス製バイオリアクター8基と、臨床用途に対応する2,000リットルのシングルユースバイオリアクター複数基が設置される予定です。これにより合計で120,000リットルを超えるバイオリアクター容量を誇る製造拠点となります。

<https://www.lottebiologics.com>